

聖路加国際大学紀要の刊行にあたって

学長 井部 俊子

「平成 25 年 12 月 19 日付で申請のあった寄付行為の変更を、私立学校法第 45 条第 1 項の規定によって認可します。」(平成 26 年 2 月 12 日、文部科学大臣 下村博文) という「学校法人寄付行為変更認可書」が届いた。これによって、学校法人聖路加看護学園は、正式に学校法人聖路加国際大学に改称された(寄付行為第 1 条)。学校法人聖路加国際大学は、「キリスト教主義に基づく人類奉仕の精神を体し、社会の情勢に適応する看護教育を授ける私立大学その他の教育研究施設を設置・



運営することを目的とする」(寄付行為第 3 条) こと、およびこの目的を達成するために、聖路加国際大学大学院看護学研究科、看護学部看護学科を設置すること、さらに「学生の臨床実習教育及び教員の研究に資するため」に聖路加国際病院を置く(寄付行為第 4 条) こととなった。

これに伴い、1973(昭和 48)年に第 1 号が発刊された聖路加看護大学紀要は、2014(平成 26)年に刊行された紀要 40 号をもって終結し、聖路加国際大学紀要に引き継がれる。聖路加看護大学紀要 40 年の歴史は、聖路加看護大学 50 年の節目であり、そのあゆみを忠実に反映した知的財産のドキュメントとなった。

紀要は、組織所属研究者の研究論文であるとともに、その組織の広報誌の役割をもつという 2 つの側面がある。前者は学会誌的性格をもつが、その公共性と客観性という点では学会誌に準じたものでしかないという評価もある。一方、後者の観点からみると、紀要はそれを発行する組織の独自性を表現する媒体であり、その組織所属研究者の夢を掲載することができる。その意味で、学会誌的客観性から離れる自由度があると考えられている。つまり、紀要を読むことによって、その組織が育む学問の未来像が見える。そうして紀要は大学の顔となるのである。(瀧川, 2002)

聖路加国際大学紀要に投稿できる教職員は、聖路加国際病院の職員も含めて、飛躍的に拡充した。紀要第 1 号はまさに聖路加国際大学の新たな出発の第一歩であり、本学の学問の未来像を記していくものである。記念すべき聖路加国際大学紀要第 1 号の編集に携わった紀要委員会委員を以下に記し、その労に感謝したい。

伊藤和弘(委員長)、及川はるみ、高橋恵子、小林京子、細田志衣、中山令子、田口瞳(2014 年 10 月まで)、追川英一郎(2014 年 11 月より)(敬称略)